

道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成 22 年度 第 1 号 2010 年 9 月 30 日

北海道立総合研究機構 栽培水産試験場 調査研究部
TEL : 0143-22-2327 FAX : 0143-22-7605

道南太平洋スケトウダラ資源調査（計量魚探調査）結果

函館水試調査船「金星丸」により行われたスケトウダラ資源調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間：平成 22 年 8 月 25～29 日
- ・ 調査海域：道南太平洋の水深 100～500m の海域

なお、スケトウダラニュースは PDF ファイルとして栽培水産試験場ホームページからもご覧になれます（ホームページには 10 月上旬に掲載する予定です）。

<http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/exp/saibai/suketoudara.htm>

- ・ スケトウダラの海域平均反応量は、ほぼ前年度並み
- ・ 魚群反応は胆振沖（とくに登別沖）が中心、恵山沖の反応は前年度を下回る
- ・ 反応の比較的強い水深は 250～300m
- ・ 漁期始め（10～11 月）の来遊量は前年同期をやや下回ると考えられる
- ・ 水温 5℃以下の水深は 120m 以深となっており（前年同期とほぼ同じ）、今年度もスケトウダラに好適な水温環境は前年度同様、浅みに形成されている

1. スケトウダラとみられる魚群は、渡島から日高海域にかけて広い範囲で観察されました。中でも、胆振海域の 185 海区の反応がもっとも強く、日高海域の 167、164 海区、胆振海域の 176 海区にも比較的強い反応がみられました。しかし、渡島海域の 189、193 海区の反応は昨年度を下回っていました（図 1・2）。
2. 海域平均の反応量は、前年同期とほぼ同程度（わずかに下回った）で、平成 13 年度以降では前年度に次いで 2 番目に高い水準となっていました（図 3）。
3. 魚群反応は、水深 100m～500m の範囲に観察されました。とくに水深 250～300m 付近に強い反応がみられました（140m 付近にも強い反応がみられますが、これは主に小型の未成魚の反応と考えられます）（図 4）。
4. トロール調査の結果、水深 200～250m の反応はスケトウダラ成魚と小型の未成魚、300m 以深はスケトウダラ成魚とイトヒキダラと考えられました。また、漁獲物は体長（尾叉長）40～45cm 前後のサイズが多いものと推測されます（図 5）。
5. スケトウダラの反応量や反応の強い海域から判断して、漁期始めの漁場は登別～室蘭沖に主漁場が形成されると考えられます。また、漁期前半の 10～11 月の来遊量は、前年度並みの反応量があった胆振側では前年度と同程度が期待されますが、前年度の反応量を下回った渡島側は前年度よりも少ないものと予想されます。
6. 調査海域の 5℃以下の水深は 120m 付近に形成されており、主に 5℃以下の水温に生息しているスケトウダラ成魚にとって、前年度同様、今年度も好適な水温環境となっています（図 6）。

なお、今回の資源調査の結果は、漁期始め（10～11 月）の状態を把握するために実施しているものです。12 月以降の状況は、11 月下旬に実施する調査により予測する予定です。調査終了後にまたスケトウダラニュースを発行して、分布状況や来遊量をお知らせします。

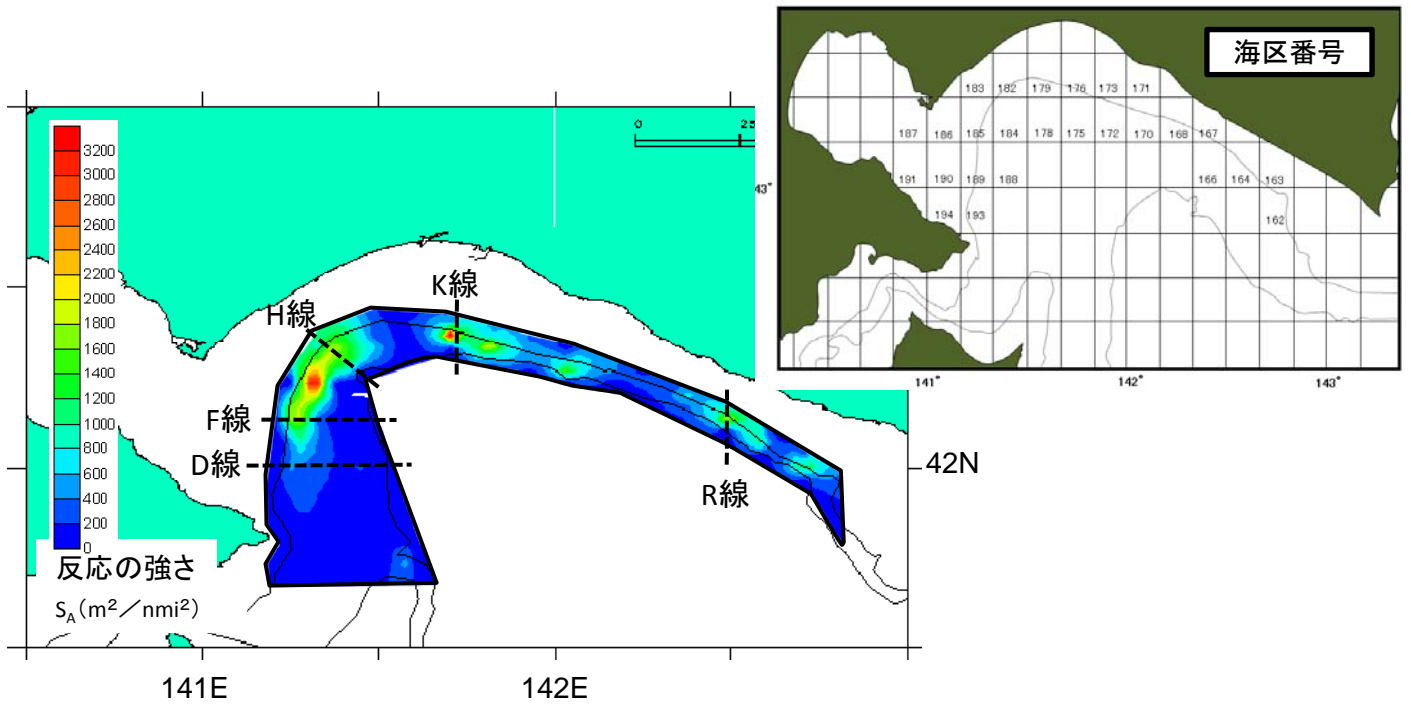


図1 調査海域における魚群の分布

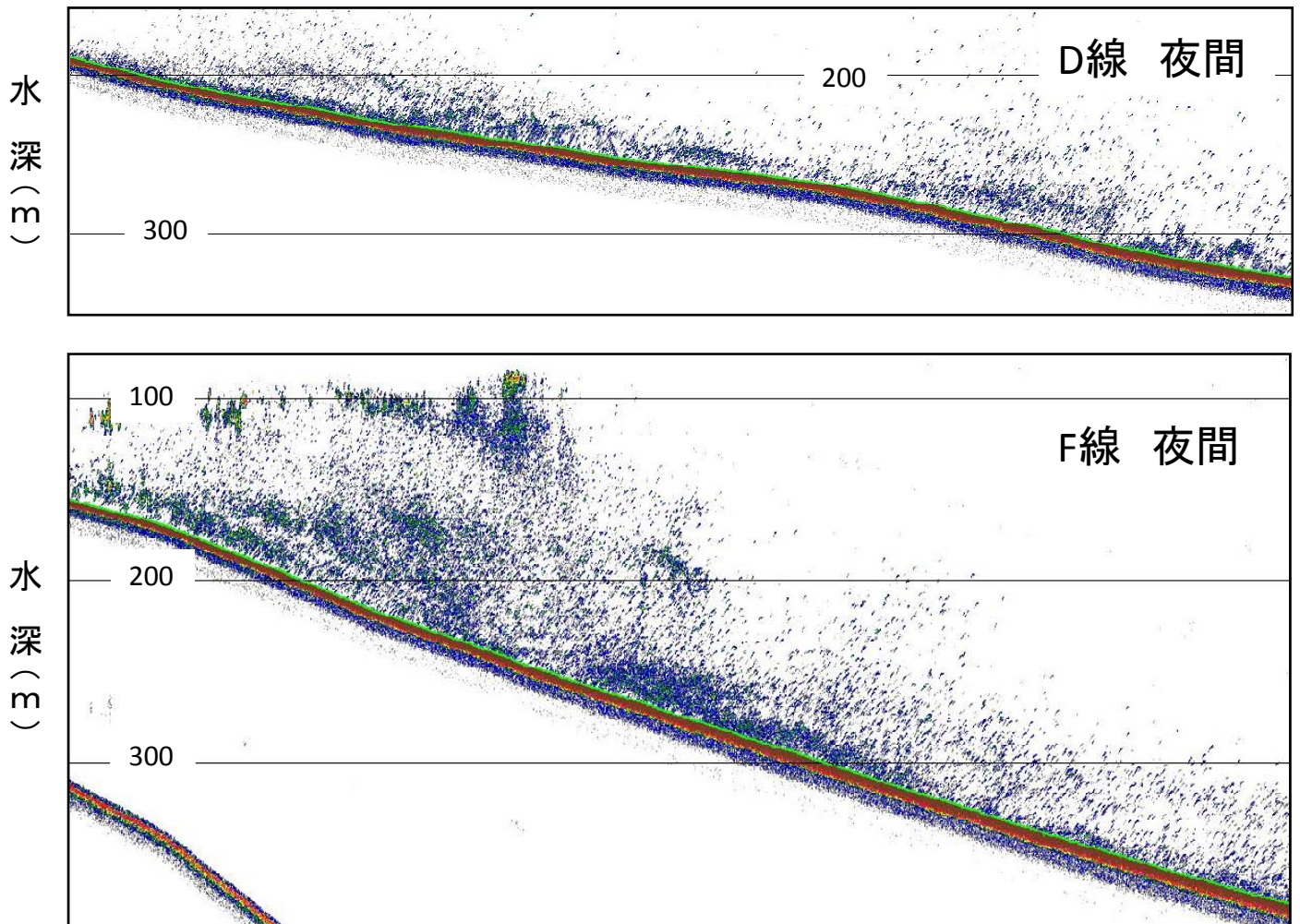


図2 魚群の分布状況(計量魚探画像)

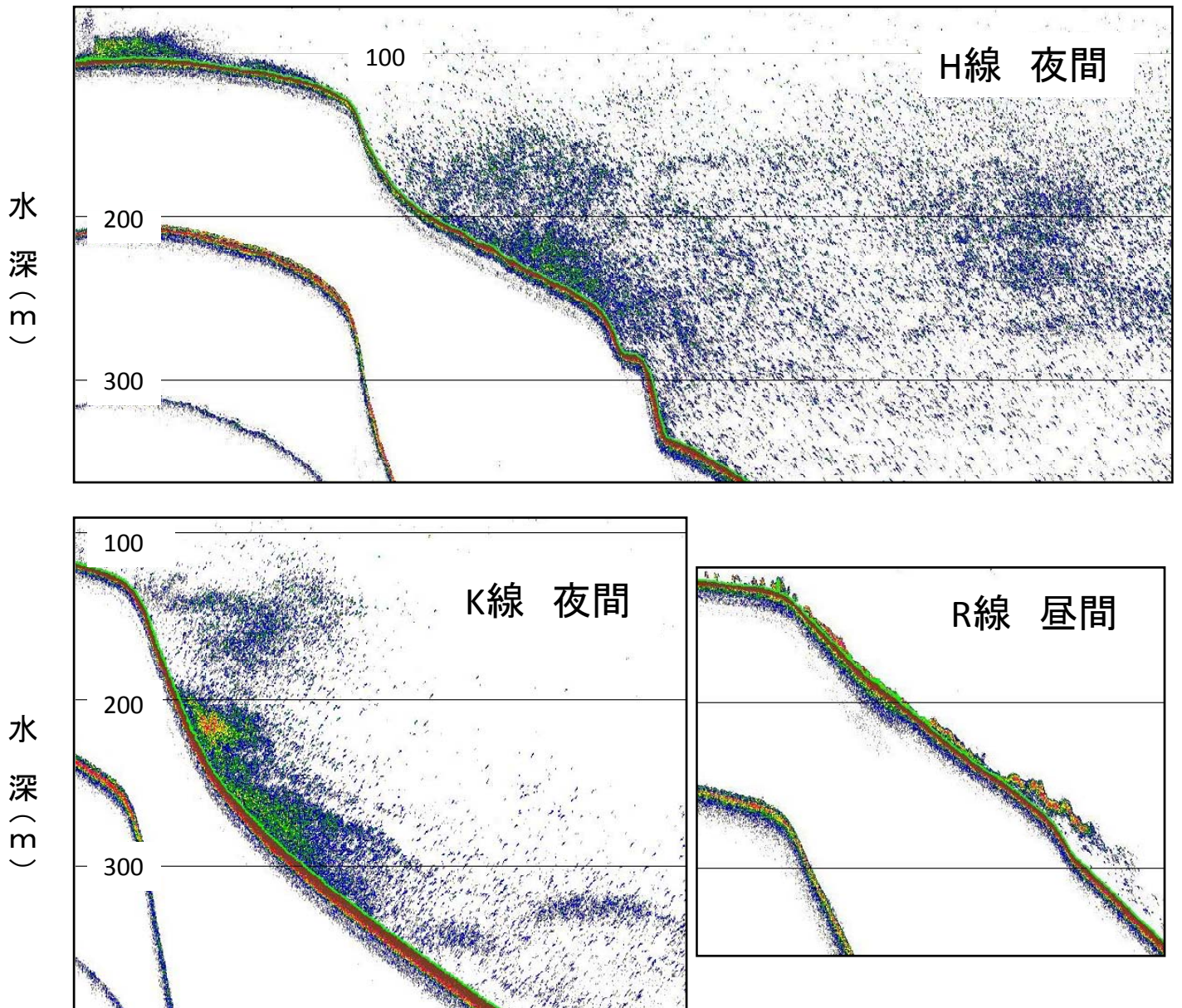


図2 魚群の分布状況(計量魚探画像)つづき

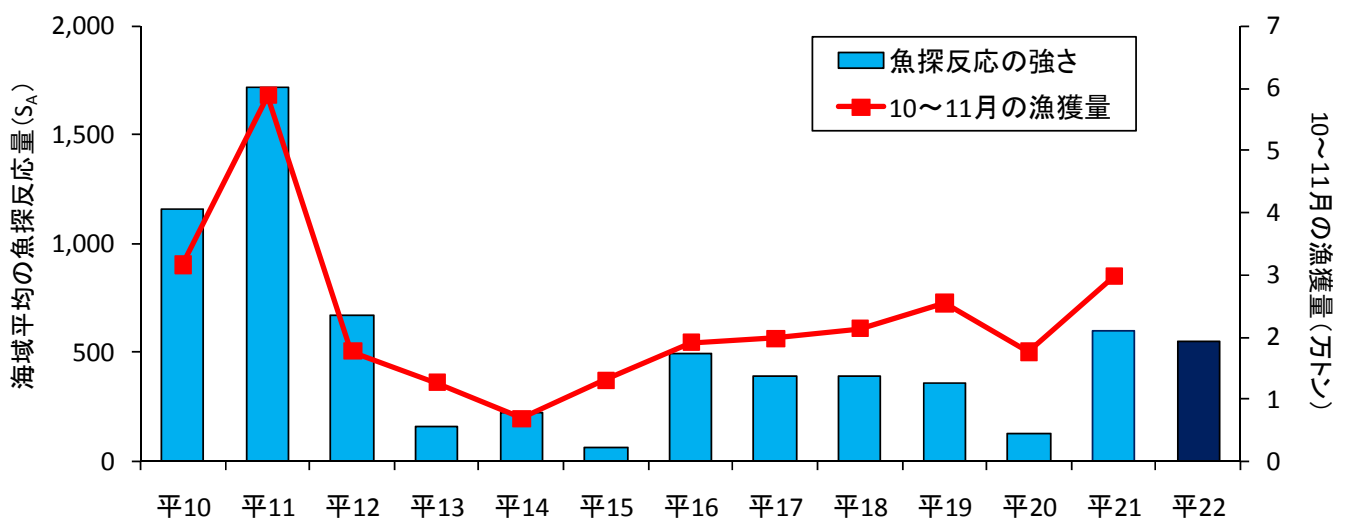


図3 道南太平洋海域におけるスケトウダラ資源尾数(棒)および重量(折れ線)

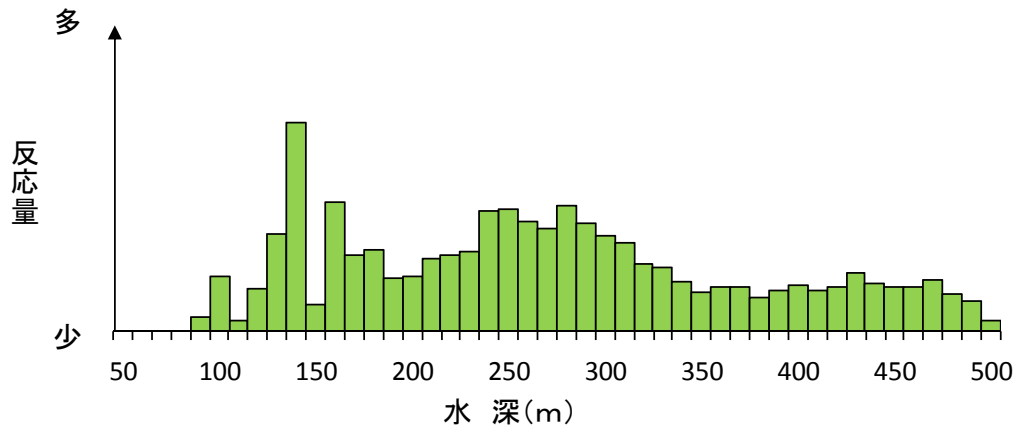


図4 水深別の魚探反応量

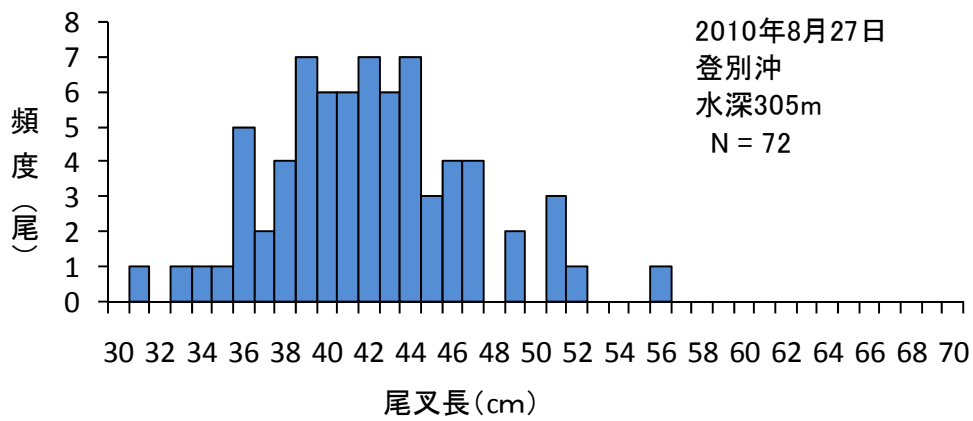


図5 漁獲物の体長組成

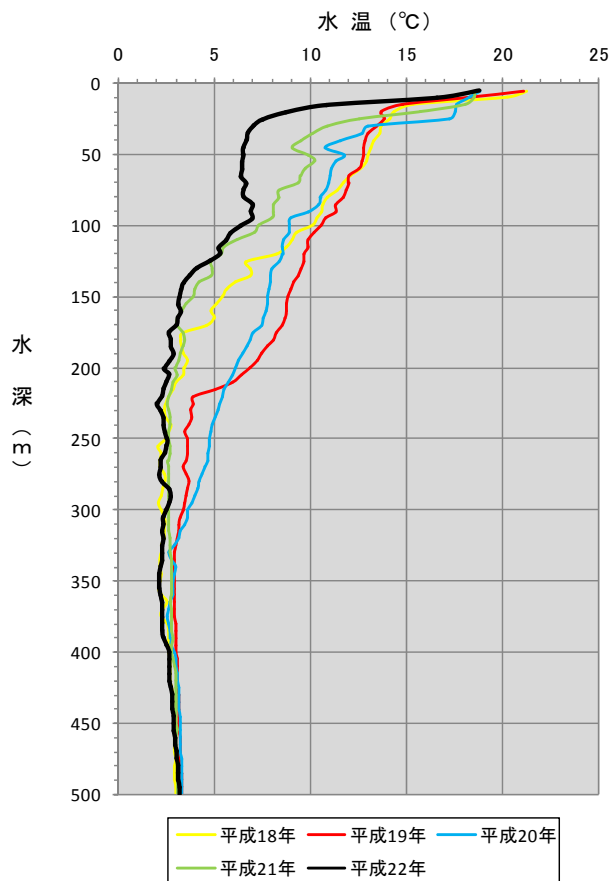


図6 水温の鉛直分布
(8月下旬:登別沖)